# 8 ヒヤリ地図をつくってみませんか？ みなさんの貴重な体験をもとに 安全な街をつくりませんか？

1 2

★今日の集まり・早わかり★

**目　的**

誰にでもある「ヒヤリ体験」を、自分たちでつくった地域の地図の上にシールを貼って表わします。そのことによって、危ない場所がわかり、改善案も提案できるようになります。みんなで作業する楽しさと、できあがった地図で達成感も得られます。

**効　果**

- 運転力　危険予測力が上がる。
- 気づき力　ドライバーの立場と歩行者や自転車の立場の違いを見ることにより、相手の立場に立った運転ができる。
- コミュニケーション力　共同作業で仲間意識が高まり、安全にむけて動機づける。
- 脳機能　体を動かしながらの話し合いで、脳が活性化する。

**時間割の目安**

▼ 約１時間 50分（準備、あとかたづけを除く）

| | |
|---|---|
| ○準備 | 10 分 |
| ①リーダーあいさつ | 10 分 |
| ②交通脳トレ | 10 分 |
| ③ヒヤリ地図をつくる（途中休憩あり） | 1 時間 25分 |
| ④リーダーまとめ | 5 分 |
| ○あとかたづけ | 10 分 |

※時間などに制約があり、１度にできないときは、２回に分けて実施してください。

## あらかじめ用意しておくこと

**《リーダー・班長》**

●「今日、話し合うことの台本」などをよく読んで、ヒヤリ地図づくりの流れを理解しておきましょう。

**《教材など》**

■リーダー・班長用：班長用に P92 ～ 103 をすべてコピー（班長の人数分）
　　机（作業用）　レポート用紙など（まとめるために）

■受講者用：「ワークシート」（P93）のコピー（人数分）※白黒コピー可
　　「今日、覚えてほしいこと」（1 枚、P94）のコピー（人数分）※白黒コピー可
　　別冊子「交通脳トレ 3 ヵ月」（2 枚 1 組）のコピー（人数分）※コピー方法は問題集参照
　　対象地域の白地図（参加者の居住地域を中心に選ぶ。2,500 分の 1 が基本で、ない場合は 5 千分の 1、1 万分の 1。自治体にたずねると 1 枚 500 ～ 800 円で入手できる）
　　のり、ハサミ、蛍光ペン（3 色）、貼り付け用シール（タックシール：直径 5 ミリで、赤、青それぞれ 1 人あたり 30 個くらいの計算で。P98 の写真参照）
　　お茶（ペットボトル）（人数分）　筆記用具（持参していただくか人数分用意）

# ワークシート　みなさんへの質問

コピー

お名前



**問1　車を運転していて、ヒヤリとした体験はありますか？**

1. ある　　2. ない

**問2　歩いたり、自転車に乗ったりしていて、ヒヤリとした体験はありますか？**

1. ある　　2. ない

**問3　家の近くで、よく事故が起きる場所はありますか？（あてはまるものすべてに○）**

1. しょっちゅう起きる場所がある　　2. ときどき起きる場所がある
3. 事故が起きてもおかしくない場所がある　　4. 危ない場所はない

**問4　［前の質問 1、2、3 で○のついた方に］それは、どんな場所ですか？（あてはまるものすべてに○）**

1. 信号のある交差点　　2. 信号のない交差点　　3. 曲がっている道路
4. 樹木や看板などで見えにくい道路　　5. 駐車場付近
6. 一方通行路　　7. 歩道のない道路
8. その他　（　　）

**問5　ヒヤリとするのは、どんな用事で出かけたときが多いですか？（あてはまるものすべてに○）**

1. 買い物　　2. 通院　　3. 散歩　　4. 仕事　　5. 友人・知人などの訪問
6. 旅行　　7. 趣味の集まり　　8. 老人会
9. その他　（　　）

**問6　ヒヤリとする時間は、何時頃が多いですか？（あてはまるものすべてに○）**

1. 朝６時～９時　　2. 昼前９時～ 12 時　　3. 昼すぎ０時～３時
4. 夕方３時～６時　　5. 夜６時～９時　　6. 夜遅く９時～ 12 時
7. 深夜０時～３時　　8. 未明３時～６時

**問7　ご近所には、危ない場所や場面などについて、話し合いができる友人がいますか？**

1. たくさんいる　　2. 少しはいる　　3. あまりいない　　4. まったくいない

## 今日、覚えてほしいこと

コピー

### 年をとると一度にたくさんのことをしたり、考えたりすることが不得意になります

年をとると素早い動作ができなくなるとか、反射的に反応することが遅くなるといわれています。また、何かを見て、どうするかを判断するとき、いくつもの情報があると、それらを同時にすばやく処理することが難しくなります。

たとえば、若い人と高齢者が並んで机に座り、前の壁にかけてある信号が青に変わったとき、いち早く机をたたく競争をしたとします。その場合は多分、高齢者も若者とほとんど同時に机をたたくことができるはずです。

しかし、信号が青に変わっても、そのときブザーが鳴らなければ机をたたいてはいけないと決めると、残念ながら高齢者は若者に負けてしまう人が多くなるでしょう。青だけで音が鳴らないのに机をたたいてしまったり、両方をちゃんと確かめようとすると、つい時間がかかったりします。

### 何でも話し合える友人を持つことで、自分の交通安全力を高めましょう

友人をたくさん持つことは、交通安全力を高めるための効果的な方法のひとつです。

たとえば、運転するときや道を歩くときは、考えごとや悩みごとを持っていると大変危険です。誰でも悩みごとはあるものですが、何でも話し合える友人がいると、悩みごとを聞いてくれ、気持がすっきりします。すっきりすれば、運転や歩行に集中することができます。

いろいろ調べてみると、その町に長く住んでいて地域に友人をたくさん持っている人は、事故やヒヤリ体験も少なく安全な人が多いという結果が出ています。仲間づくりは交通安全力を高める大事な手段です。

ヒヤリ地図づくりは、危ない場所を見つけたり、危ないケースを見つけて注意し合うという効果がありますが、ヒヤリとした体験を話し合う中で、仲間づくりを進めていくという意味でも、大変大事な交通安全教育の機会なのです。

ヒヤリ地図づくりなどをして、自分だけでなく他の人の安全のことを考えたり、そのための役割を果たしたりしていると、それは自分の交通安全力を高める結果になるのです。

## 事前に必ず準備するもの

**参考資料を見ておく**
↓
**ヒヤリ地図の現物やパンフレット**

ヒヤリ地図づくりは、現在、全国いろいろな所で行われています。警察などに行って聞いていただけると、近くに経験者がいて、紹介してくれるかもしれません。できれば、できあがった「ヒヤリ地図」の現物を見ておくと、明確なイメージがわき、上手に進行することができるはずです。

また、「ヒヤリ地図をつくろう」というタイトルのパンフレットやビデオもありますので、手に入れば、あらかじめ見ておくとよいでしょう。

**白（はく）地図**

実際の作業を進めるにあたって絶対に必要なものが、その地域が示された白地図です。

### ● 白地図（地図帳）の入手方法

市区町村役場で入手できます。できれば2,500分の1のもの（ない場合は、5千分の1、1万分の1）。1枚500～800円です。

### ●白地図を貼り合わせる

白地図を何枚か貼り合わせて1×1.5メートル程度の大きさ（もちろん地域によって形は変わる）にします。

### ●白地図の範囲

地図には
・参加者の自宅と作業をする会場や
・参加者の買い物や通院など日常的な行動範囲
が含まれていることが必要です。

白地図の範囲も参加者の話し合いによって決め、貼り合わせる作業も参加者が行うことが理想的です。参加者に地図を理解してもらう効果があります。

### ●白地図に貼るための貼り付け用シール（2色）と蛍光ペン（3色）

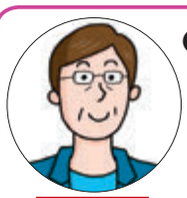
さらに白地図の上に参加者がヒヤリ体験を色分けして貼り付けるため貼り付け用シール（タックシール）（2色）が必要です。シールは、歩行者や自転車の立場から感じたヒヤリ体験、ドライバーの立場から感じたヒヤリ体験の2つのケースに使います。いろいろな大きさがありますが、直径5ミリのものをご用意ください。

みんながよく知っていたり、利用したりする施設や、大きな道路を地図上に明示するために蛍光ペン（3色）を用意しておくと便利です。

# 今日、話し合うための台本

| 進める順序 | リーダーと班長にやっていただくこと |
|---|---|
| ○準備<br>10分 | ※参加者の人数に合わせて、あらかじめリーダーは班長を決めておく。<br>①班を編成（5～8人）する。<br>②机やいすを並べかえ、班ごとに着席する。 |
| ①リーダーあいさつ<br>10分 | ♣ リーダー（班長の代表）<br> <br> |
| ■班ごとに自己紹介 | ♠ 班長　ご自分を含め、全員に自己紹介をしてもらう。<br>（お名前、お住まいの地域、運転歴、最近車で出かけた所など） |
| ②交通脳トレ<br>10分<br>■「交通脳トレ」問題２枚配布<br> | ♠ 班長<br>①「交通脳トレ」問題２枚を配る。<br>②腕時計（秒針付き）で、問題終了までの時間を計り用紙に記入する。<br>★リーダーが時間を計ってもよい。<br>▼１枚目　「文字ひろい」または「まちがい探し」　▼２枚目　「計算と音読」<br> <br> |

## 話し方の例　このまま読みあげるだけで講座を進めることができます



リーダー

●今日は、みなさんが道路を歩いたり、自転車に乗ったり、あるいは運転したりして、ヒヤリとした場所を、家の近くの地図をつくって、その上にシールを貼って示すという、いわゆる「ヒヤリ地図づくり」をしたいと思います。

●「ヒヤリ地図づくり」は、国際交通安全学会で考えられました。みなさんで危険な場所を探し、お互いの危険体験を話し合いながら、それを共有し、安全を守っていこうという目的で、全国いろいろな場所で行われている交通安全教育の試みです。

●危ない所をお互いに確認するだけでなく、ときにはこんなふうに改善してくれたら、ヒヤリはなくなります、と警察や市役所などに提案するという方法もあります。

●また、お互いに自分たちの町の安全を考えるよいチャンスにもなり、仲間意識も高まることによって、実際の事故が減ったという事例も数多く報告されています。今日は、人の話を聞いたり、みんなで力を合わせて実際に手づくりで「ヒヤリ地図」という成果物をつくっていくので、楽しみながらの作業をしたいと考えています。

●これから班ごとにトレーニングを始めます。班長のみなさんや私の司会で進めていきます。

**運転免許を持たない方も参加している場合の追加説明の例**

●車を運転されない方は、歩いているとき、原付や自転車で走っているとき、車の助手席に座っているときのヒヤリ体験をもとに、地図づくりに挑戦してください。いろいろな立場から意見をいい、理解し合うのはとても大事なことです。

班　長

●最初のトレーニングは「交通脳トレ」です。この問題は３ヵ月分あるので、今日はそのうちの１日分（２枚）をやっていただきます。

●１枚目の問題では、安全運転に大切な、運転中にとっさに危険を察知する能力を支える、脳のトレーニングを行います。

２枚目の問題では、簡単な計算問題（※）と小説などの一部を音読していただき、脳を活性化します。２枚１組の問題を少なくとも３ヵ月間続けて行うと効果が出てきます。

●２人１組になり、問題にかかった時間を腕時計（秒針付き）で計ります。１枚目の問題から始めます。「スタート」の合図をしたら、時間を計ってください。では、スタートします。
（２枚目の問題も同様に行う）

## ポイント

★準備の必要上、初めて実施するときは事前に班長を決めておきますが、次回からは自薦、他薦で班長を決めるのもよいでしょう。

★参加者のみなさんに、トレーニングの目的、内容を理解してもらうことが大切です。

★趣旨説明ではリーダーは一方的に話すのではなく、参加者と話し合いをしながら、意見や提案を受ける形で進める方がよいでしょう。
重要なことは、参加者に上から命じられてそれを行うのではなく、自分たちのために、自分たちの企画で地図づくりが行われているのだと実感してもらうことです。

★お互いのことを知ると話がスムーズに進みます。

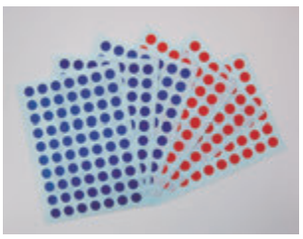
★まず、「交通脳トレ」から始め、脳の働きを高めます。

★開発者は、脳のトレーニングで知られる東北大学の川島隆太教授です。

※やさしい問題をすばやく正確に計算することが、脳を活性化させます。

★時間の計り方を練習してから始めましょう。

＊「交通脳トレ」の詳しい情報は、別冊子「交通脳トレ３ヵ月」をご覧ください。

| 進める順序 | リーダーと班長にやっていただくこと |
|---|---|
| **③ヒヤリ地図をつくる** 1時間25分<br>■「ワークシート　みなさんへの質問」1枚配布（5分） | **班長**<br>①「ワークシート　みなさんへの質問」1枚を配り、参加者に記入してもらう。<br>②班ごとの進行役になって、1人ずつ答えと理由を聞く。<br>③班の参加者の報告を簡単にメモする。<br> |
| ■進め方の説明（5分） | **リーダー（班長の代表）**<br>○「ヒヤリ地図づくり」の進め方について説明する。<br> |
| ■貼るシールの色を決める（5分） | **リーダー（班長の代表）**<br>○シールの色について、参加者の意見を聞く。<br> <br>  <br>貼り付け用シール<br>（直径５ミリのタックシール） |
| 休憩　（5分） | |
| ■地図の貼り合わせ（5分） | **班長**<br>①地図づくりについて説明する。<br>②参加者に白地図を示す。<br>③班ごとに地図の貼り合わせをする。<br> <br>のり、ハサミ<br> <br>白地図 |

| 話し方の例 | ポイント |
|---|---|
| <br>●作業に入る前に、「ワークシート」を配ります。該当すると思うものに○をつけてください。<br>●「ワークシート」に記入することは、これから行う「ヒヤリ地図づくり」の頭の準備体操になります。わからないことがあれば聞いてください。地図をつくるときのデータになりますので、書き終わりましたら、大事に持っていてください。 | |
| <br>●それでは「ヒヤリ地図づくり」の作業に入ります。<br>●まず、「ヒヤリ地図づくり」の進め方について説明したいと思います。みなさんで一緒につくっていくことが大切です。<br>固くならず、積極的に話しながら楽しく作業を進めてください。<br>●順序は<br>1. 白地図を貼り合わせます。<br>2. 地図上にこの会場やみなさんの家の位置に蛍光ペンで印をつけます。<br>3. 地図上にヒヤリとした場所に貼り付け用シール（タックシール）を貼ります。<br>4. その後、シールが集中した個所について話し合います。<br>●どのようなヒヤリ体験を地図上に貼りましょうか？<br>よく行われているのは、歩いていてヒヤリとした場所、自転車に乗っていてヒヤリとした場所、車を運転していてヒヤリとした場所を、シールで色分けして貼っていくというやり方です。 | ★リーダーはできるだけ和気あいあいと作業が進むようにリードすることが大切です。 |
| <br>●まず貼る色を決めましょう。<br>今日は赤と青の２色の貼り付け用シールを用意しました。歩いていてヒヤリとした場所と自転車に乗っていてヒヤリとした場所は何色にしましょうか？（赤にしましょう）　それでは、車を運転していてヒヤリとした場所は（青）ということになります。<br>●貼り付け用シールは後でお渡しします。では班ごとに作業を進めてください。 | |
| | |
| <br>●それでは、いよいよみなさんの手で、シールを貼るための地図をつくっていただきます。できるだけ細かい地図が必要だと思いますので、地域の地図を用意しておきました。<br>●地元ですからみなさんよくご存じだと思いますので、用意したのりとハサミを使って貼り合わせ、大きな地図に仕上げてください。 | |

| 進める順序 | リーダーと班長にやっていただくこと |
| --- | --- |
| ■地域の主要な建物、自分の家に印をつける（10分） | 班長<br>①でき上がった地図に、学校、公園、スーパー、病院など誰でもよく知っている建物に蛍光ペンで印をつけるように指示する。<br>②自分の家に①と違う色の蛍光ペンで印をつけてもらう。<br> <br> <br>蛍光ペン（3色） |
| ■ヒヤリ個所にシールを貼る<br>★歩行中、自転車利用中にヒヤリとした場所（10分）<br>(2回に分けて行うとき、1回目はここで終了し、102～103ページの④リーダーまとめを行ってください)<br>★運転中にヒヤリとした場所（10分）<br>■貼り付け完了 | 班長<br>①貼り付け用シール（赤、青）を各人、各色30個程度配布する。<br>②でき上がった地図に、各自がヒヤリとした体験をした場所にシールを貼ってもらう。<br>③貼り終わったら、でき上がった地図についての意見や感想などを参加者に聞く。<br> <br> |
| 休憩　（5分） | |

## 話し方の例

●きれいな地図ができ上がりましたね。せっかくつくった地図ですから、学校だとか公園、スーパー、病院など誰でもよく知っている建物に、蛍光ペンで印をつけておきましょう。

現在作業している場所を確認し、これも印をつけてもらいます。みなさんで話し合いながら作業を進めてください。

●よろしいですか？　目印になる建物に印がついたことで、きっとみなさんは地図がよくわかったと思います。

［目印になる建物の印がついたら］

●次は地図の上で、みなさんがお住まいの家のあたりを探してみてください。もし見つからなかったら、お互いに探し合いをしてみてください。見つかったら、そこに先程の目印とは違った別の色で印をつけてください。

もし、グループのメンバーに知らない人が含まれていたら、お互いに自分の家を示しながら、簡単な自己紹介をし合ってください。

●作業の第２段階は、ヒヤリ個所の指摘です。貼り付け用シールを配ります。

［準備が整ったら］

●さて、いよいよ赤のシールを使って、歩行中あるいは自転車に乗っていて、ここの角でヒヤリとしたとか、この建物の前でこわい思いをしたとかいう場所に、できるだけたくさんシールを貼ってください。

シールはたくさんありますから、他の人が貼った場所でも結構です。その部分は少しずらして貼ってください。

［歩行中、自転車利用中のヒヤリ個所を貼り終わったら］

●そろそろ、車を運転していてヒヤリとした場所の方に移ってよろしいですか？

●それでは今度は青のシールを使って、自分が運転しているとき、あるいは運転していなくても車に乗っているときにヒヤリとした場所にシールを貼っていってください。シールの貼り方は先程の赤の場合と同じやり方でお願いします。

［貼り付けが完了したら］

●色が入ると、きれいな地図ができ上がりましたね。シールの所は危険な場所ですから、あまりシールが多く貼られて、きれいだということは本当は困るのですが、これだけ危険と隣り合わせているということなのですね。

## ポイント

★参加者に実際に作業してもらうのは、まず地図を理解してもらうという仕事です。そのために、地図上の主な建物や道路などを確認し、蛍光ペンで印をつけてもらうという方法が有効です。

★シールを貼る場所が少ない高齢者に劣等感を感じさせないように配慮することも重要です。

例）思い出したら、後でいいですから貼ってください。

★すでに他の人がシールを貼ってあるときは、何枚貼られているかわかるように、少しズラして貼っていただきます。

★貼るのは１人ずつですが、そのプロセスではみなさんで話し合いながら行っていきます。

他の人が貼った所を、「そこは危なくない」などと否定してはなりません。

★たくさん貼られているヒヤリ個所、つまり重大危険個所をみなさんで確認することが必要です。

★貼り終わったら、みなさんでそのできばえを話し合いましょう。みんなでつくった地図であることが達成感をもたらします。

| 進める順序 | リーダーと班長にやっていただくこと |
|---|---|
| ■つくった地図の掘り下げ（5分） | **班長**<br>①でき上がった地図を見ながら、どこにシールが集中しているかなどを、リーダーと班長の司会で、班ごとに話し合う。<br>②班ごとの報告に備え、班メンバーの発言内容をメモしておく。<br>③班メンバーと相談しながら、報告内容をまとめる。 |
| ■班の代表の発表（10分） | **班長**<br>○班ごとに代表が出て、シールが集中した危険な個所を中心に発表する。<br>1. ヒヤリ地図をつくってわかった危険な場所<br>2. 危険を招かない走り方、歩き方<br>3. グループで話し合った道路などの改善提案<br> |
| ■ヒヤリ地図の有効な活用方法についての話し合い（10分） | **班長**<br>○つくった地図を、地域の交通安全のために役立ててもらう活動に発展させるためのアイデアをみんなで出し合ってもらう。<br> |
| **④リーダーまとめ** 5分<br>■「今日、覚えてほしいこと」１枚配布 | **リーダー（班長の代表）**<br>①リーダーとして今日の話し合いの感想を話す。<br>②「今日、覚えてほしいこと」１枚を配り、説明した後、参加者に読んでもらう。<br>③今日のまとめを話す。<br> <br> <br>【ご注意】次回の集まりをご計画の場合は、最後にその案内や班長の人選を忘れないようにしましょう。 |
| **○あとかたづけ** 10分 | |

| 話し方の例 | ポイント |
|---|---|
| <br>●つくっていただいた地図を見ながら、みなさんでいろいろ討論していただきます。<br>●みなさんで、たくさんシールが貼られている場所をいくつも探し出してみてください。<br>そこがどんなふうに危ない場所なのか、思いあたることや、思いついたことがありますか？ どんな時間帯で、どんな形で危険な思いをしたかを説明し合ってください。<br>［意見が出尽くしたら］<br>●他の人がそうした危険な目にあわないためにも、「できればこうすればヒヤリはなくなるのではないか」ということも提案し合ってみてください。 | ★シールがいくつも貼られる重大危険個所では、どんなヒヤリ体験や事故が多いのかをみなさんで話し合いましょう。<br>それが昼か夜かなども重要なポイントになるでしょう。<br><br>★前へ出てきて、自分のその場所でのヒヤリ体験を語ってもらうのもよいでしょう。<br><br>★班ごとの報告を聞くことで、他地域の危険個所をお互いに知ることができます。 |
| **【アイデア例】**<br>・でき上がった地図を、町内会の掲示板や小学校など、公の場所に貼って地域の人に見てもらう。<br>・できあがった地図を縮小コピーして、印刷して配る。<br>注）自治体で入手した地図や市販の地図に手を加えたものを掲示したり、印刷・配布するときは、著作権の関係上、承認を受けることが必要です。もよりの自治体（都市計画課など）または発行元にご相談ください。 | ★「ヒヤリ地図づくり」はこうした活動を通して、参加者が安全に向けて動機づけられることを目的としていますが、加えて、できあがった地図を活用していくことも意義深いのです。 |
| <br>●現在わが国では、交通安全教育は、いわゆる人の話を聞くといった「座学型」の教育が多いのですが、参加・体験・実践型の交通安全教育にすれば、より効果があるといわれています。<br>●今日は、みなさんが手を動かし、体を動かして、とても熱心に、しかも楽しそうに作業をしているのを拝見させていただいて、ああこういう形を「参加・体験・実践型交通安全教育」というのかな、と強く感じました。<br>みなさんが今日の集まりを通して、安全を守っていこうという気持ちになっていただければ、本当にすばらしいことだと思います。<br>●資料「今日、覚えてほしいこと」は、指名させていただきますので、順番に読みあげていただけますか。（※①）<br>●ヒヤリ地図には安全のための情報が満載されているわけですから、つくっただけでこのまま地図が眠ってしまうのではもったいないな、と強く感じています。<br>地域の人たちが見てくれる場所に展示したり、これを小さい地図に転記し、印刷して配ったり、あるいは報告会を開いたり、活用の方法がいろいろ考えられるのではないかと思います（※②）。何をするにも時間とお金がいりますが、みなさんでこれを発展させることも考える必要があるな、と痛感しています。 | ★参加者はトレーニングの後、今日のまとめを期待しています。リーダーの方は「今日、覚えてほしいこと」を配り、今日のトレーニングのポイントをまとめて伝えましょう。<br><br>★感想の中で、具体的な参加者のお名前などをあげながらお話しし、リーダーとしての感想をつけ加えていただくと、より励ましになります。<br><br>※①時間がなければ「ここでは読みあげませんが、お帰りになってからお読みいただけると幸いです」とつけ加えてください。<br><br>※②上の「アイデア例」の注を必ず守ってください。 |